

L04



小4 理科 「雨水のゆくえ」

湧水とは

地下水が、台地の崖下や丘陵の谷間などから自然に湧き出しているものを湧水と呼んでいます。東京の湧水は、多摩川が作った武蔵野台地の湧水と、多摩川の支川である秋川、浅川流域の湧水が主なものです。小金井周辺は国分寺崖線下から地下水が豊富に湧き出している地域で、湧水が集まり野川になって流れています。

湧水の役割

(1)自然の水循環としての湧水

地表に降った雨水は、地下に浸透して地下水となったり地表を流れたりして、最終的には海に注いでします。そして水は蒸発し再び雨となって地表に降ります。湧水はこのような水循環の中で次のような役割を果たしています。

- 野川、白子川、落合川などの、都内の中小河川の水源となる
- 蒸発散作用により周辺環境の気温を下げ、ヒートアイランド現象を緩和する
- 湧水の水量や水質を通じ、地下水位の変化や土壌・地下水の汚染状況などの指標となる



貫井神社北側岩盤より流れ出る湧水

(2)地域の自然の象徴としての湧水

湧水は、豊かな自然をはぐくみ、人々にうるおいとやすらぎを与えるなど、地域の自然のシンボルとしての意味を持っています。

- 周辺の水路や池、河川などとともに豊かな自然環境を創出する。
- 地域の歴史や文化を継承し、また、観光資源や災害時の水源、親水空間を提供する。
- 身近な動植物の貴重な生息環境となる。

東京の湧水と人々とのかかわり

野川上流部の湧水周辺では、縄文時代の生活の跡である遺跡が多数発掘されています。湧水は、古代から生活用水源の一つとして人々の暮らしと深く関わってきたと考えられています。

「小金井」の地名は、「黄金に値する豊富な水が出る」ことから、黄金井＝小金井になったといわれています。小金井市中央商店街の裏には、100メートルの深さから汲み上げる中硬水の地下水「黄金の水」があり、地域の方に親しまれています。年に2回水質調査が行われ、安全な水が提供されています。「黄金の水」は試飲用の蛇口で1杯無料で試飲できるだけでなく、家庭用に利用する場合は登録制の水栓鍵(500円)で自由に汲むことができるため、近隣住民の方が多く利用しています。商店街周辺では、「黄金の水」を使ったコーヒーやパン、蕎麦、ゼリーなども購入できます。また、水汲み場の隣にはコーヒースタンドがあり、「黄金の水」で淹れたドリップコーヒーを楽しむことができます。浄水で淹れたコーヒーとの違いも味わってみてください。



「黄金の水」の水汲み場とコーヒースタンド

関連資料

■ 東京都環境局

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/water/conservation/spring_water/type.html

■ 黄金の水（東京都産業労働局）

https://chiikishigen.tokyo/introduction/details/introduction_52.html